

# PISA 2006の結果を受けた今後の取組

## 我が国の学力の状況

- 前回同様、科学的リテラシーは国際的に見て上位であり、読解力はOECD平均と同程度。
- 数学的リテラシーの平均得点は低下したものの、OECD平均より高得点のグループ。
- 科学への興味・関心が低く、観察・実験等を重視した理科の授業を受けていると考える生徒が少ない。

## 課題

- 数学について、知識・技能を実際の場面で活用する力に課題。
- 科学への興味・関心が低い。
- 読解力の向上は引き続き課題。



学習指導要領改訂の議論において課題とされてきたことが、今回のPISA調査の結果でも改めて確認された。

## 今後の取組

### ～学習指導要領を改訂し、理数教育や言語活動を充実～

#### ● 理数教育の充実

- ・ 算数・数学の授業時数を増加（小学校16%、中学校22%増）
  - 数量や図形の知識・技能を実際の場面で活用する時間を確保
- ・ 理科の授業時数を増加（小学校16%、中学校33%増）
  - 観察・実験等を充実する時間を確保し、関心や意欲を高める

#### ● 言語活動の充実

- ・ 国語の授業時数を増加（小学校6%、中学校10%増）
- ・ 各教科等で言語活動を充実（観察・実験や社会見学後のレポートの記述内容の充実など）

### ～個に応じた指導を積極的に実施～

- ・ 習熟度別指導、少人数指導の実施
- ・ 発展的な学習、補完的な学習の実施

### ～教育条件を整備し、教師が子どもたちと向き合う時間を確保～

- ・ 教職員定数の改善
- ・ 外部人材の活用、教師の事務負担の軽減 など